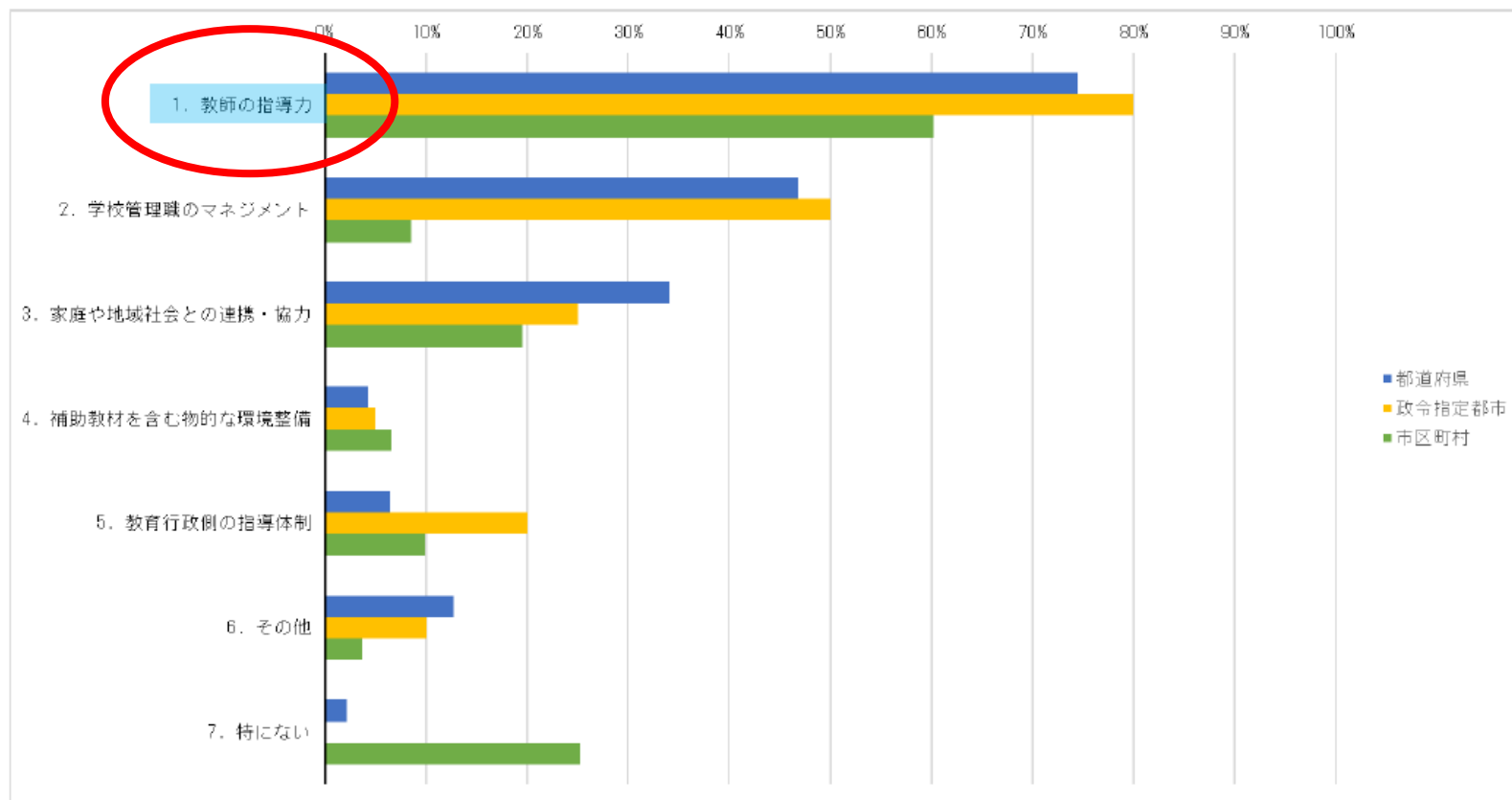


道徳科の授業改善

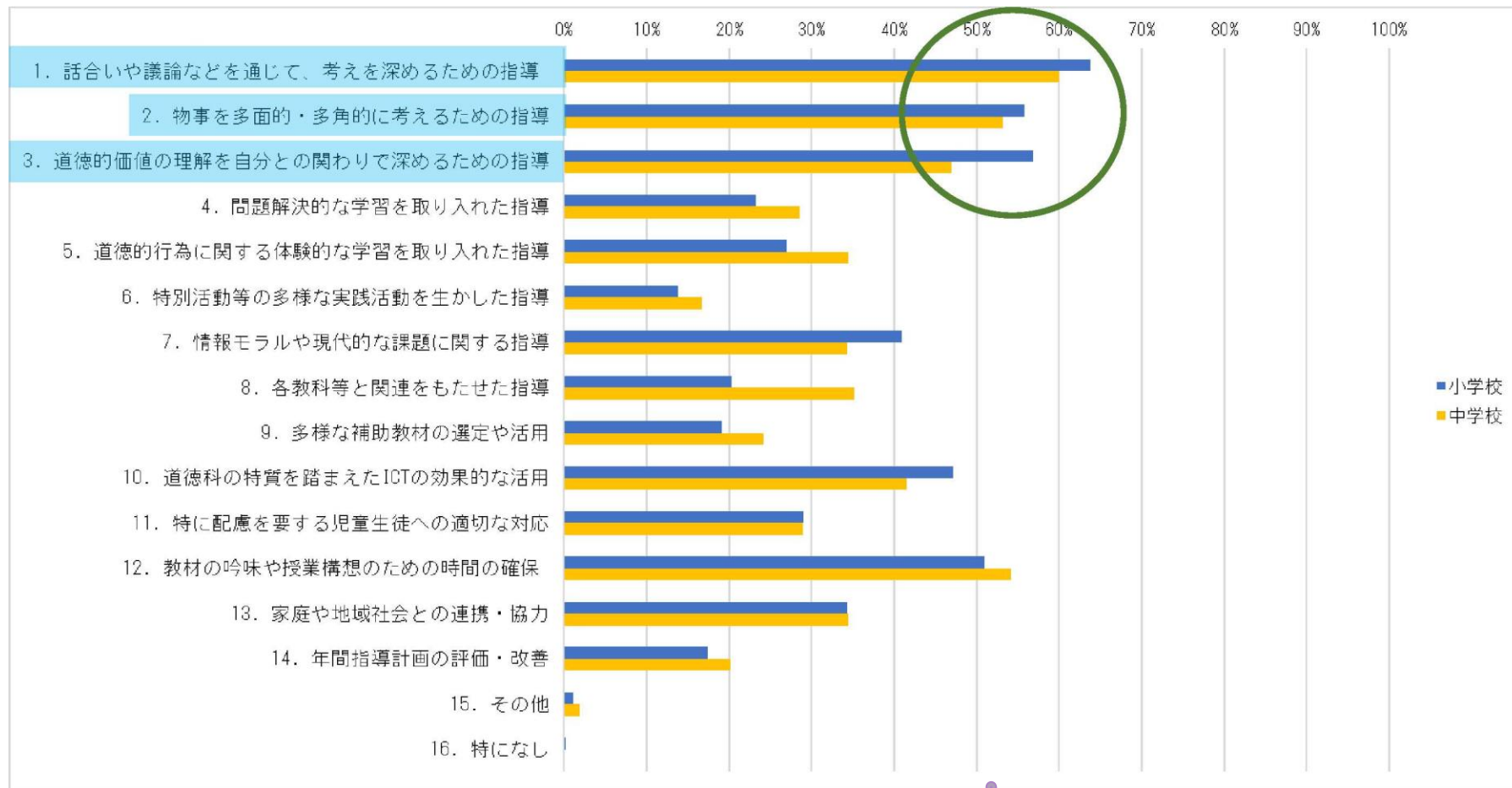
調査結果（教育委員会）

【設問2-①】道徳教育のさらなる充実のために特に課題となっていること（複数回答）



調査結果(小・中学校)

【設問6】 道徳科の授業を実施する上での課題(複数回答可)



道徳科の授業改善

調査結果(小・中学校)

【設問12】道徳の「特別の教科」化を受けた変化



「特別の教科 道徳」の目標

第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる**道徳性**を養うため、**道徳的諸価値**についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める**学習**を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。

小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳

学校教育における道徳性の捉え方

道徳的判断力

それぞれの場面で善悪を判断する能力

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道徳的実践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

【小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29. 7から一部抜粋】

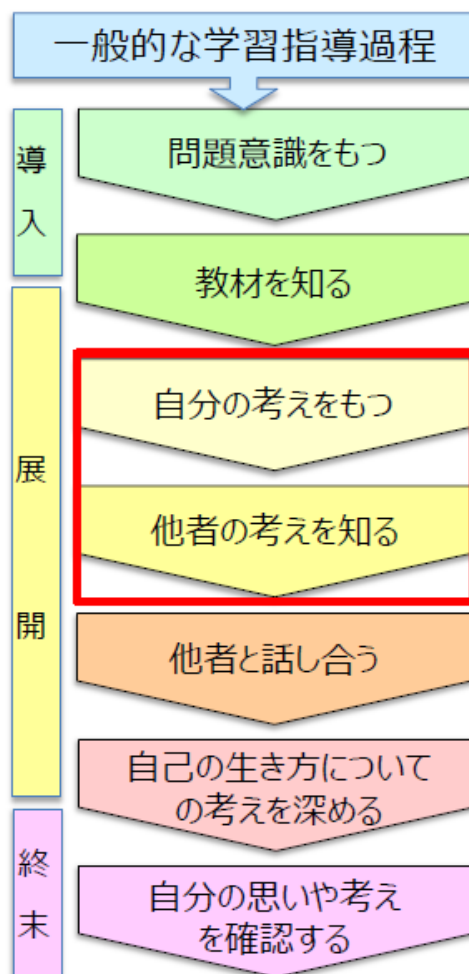


道徳科の学習指導過程でのICT活用(例)

段階	学習の目的	主な学習活動	I C Tの活用例
導入	・ 実態や問題を知る。	・ 道徳的価値について、 問題意識をもつ。	・ 実態や問題の提示 (画像や映像、グラフ等)
展開	・ 教材を活用して、 道徳的価値を理解し、 よりよい生き方を考 える。	・ 自分自身との関わり で考える。 ・ 多面的・多角的に考 える。 ・ 自己の(人間として の)生き方についての 考えを深める。	・ 教材の提示 (画像や映像等) ・ 自分の考えをもつ (I C T端末に示す) ・ 他者の考えを知る (I C T端末に共有する) (表やグラフ等) ・ 話し合う(対話) ・ 自己を見つめる (I C T端末に蓄積する)
終末	・ よりよい生き方の 実現への思いや願い を深める。	・ 道徳的価値について の自己実現への意欲を 高める。	・ 生活の様子の提示 (画像や映像等) ・ 外部の方の言葉の提示 (画像や映像等)

小学校・第3学年・道徳科・主題名「正しいことは自信をもって」

内容項目：A 善悪の判断、自律、自由と責任



授業のねらい

正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする心情を育てる。

活動のねらい

自分の考えを示すとともに、友達の考えを知り、比較して話し合いながら、自分の考えをより確かなものにする。

ICT活用のポイント

自分の考えをI C T端末の座標軸に書き込み、共有することによって他者の考えを視覚的に知ることができ、これらを基に話し合うことができる。

事例の概要

本授業では、善悪の判断とともにその時の気持ちを合わせて考えられるようにするために座標軸を活用している。自分の気持ちや考えをI C T端末で示し、友達の考えを知って話し合うことで、道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であることが理解できる。

自己を見つめる

■ 価値理解

■ 人間理解

■ 他者理解

自分との関わりで捉える

自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、考えを深める



自己理解

- ・ 成長を実感する
- ・ 課題や目標を見つける

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29. 7から一部抜粋】

多面的・多角的に考える

- ・ 多様な感じ方や考え方に接する
- ・ 多様な価値観の存在を前提に考える
- ・ 他者と対話したり協働したりしながら考える



児童自らが、物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにする

自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育むのである

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29. 7から一部抜粋】



★「特別の教科 道徳」の目標(中学校)

物事を広い視野から多面的・多角的に考える

グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発達や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。こうした課題に対応していくためには、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察することが求められる。(中略)

とりわけ、諸事象の背景にある道徳的諸価値の多面性に着目させ、それを手掛かりにして考察させて、様々な角度から総合的に考察することの大切さや、いかに生きるかについて主体的に考えることの大切さに気付かせることが肝要である。それは、物事の本質を考え、そこに内在する道徳的諸価値を見極めようとする力にも通じるものである。

【中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29.7から一部抜粋】

自己の生き方についての考えを深める

- 児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする。
- 他者の多様な感じ方や考え方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。
- それとともに、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29. 7から一部抜粋】



「特別の教科 道徳」の目標（中学校）

人間としての生き方についての考えを深める

- 人間にとっての最大の関心は、人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかということにあり、道徳はこのことに直接関わるものである。
- 人間は、自ら生きる意味や自己の存在価値に関わることについては、全人格をかけて取り組む。
- 人間についての深い理解と、これを鏡として行為の主体としての自己を深く見つめることを接点に、生き方についての深い自覚が生まれていく。

【中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29. 7から一部抜粋】

道徳的諸価値について理解する

■ 価値理解

人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

■ 人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

■ 他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29. 7から一部抜粋】



明確な指導の意図をもつ

ねらいや指導内容についての教師の捉え方を明確にする。

道徳的価値

ねらいや指導内容に関連する児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願いを明確にする。

児童生徒の実態

使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を明確にする。

教材の活用

明確な指導の意図



道徳科の指導方法の工夫(例)

- ア 教材を提示する工夫
- イ 発問の工夫
- ウ 話合いの工夫
- エ 書く活動の工夫
- オ 動作化、役割演技など
表現活動の工夫
- カ 板書を生かす工夫
- キ 説話の工夫 等

ICT端末
の活用

これらの指導方法の工夫は、児童生徒が表現しやすい状況をつくっていると言える。(学習状況の評価にも生かせる。)

【小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29.7から一部抜粋】

道徳科における評価の意義

観点

教師

教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

児童生徒

視点

自らの成長を実感し意欲の向上につながるもの

指導に生かされ、**児童生徒の成長につながる評価**でなくてはならない。

指導と評価の一体化

学校教育における道徳性の捉え方

道徳的判断力

それぞれの場面で善悪を判断する能力

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道徳的実践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

【小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29. 7から一部抜粋】

教師の授業に対する評価の観点の例

- ア** 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の（人間としての）生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- イ** 発問は、児童（生徒）が（広い視野から）多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- ウ** 児童（生徒）の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童（生徒）の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- エ** 自分自身との関わりで、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- オ** ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童（生徒）の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- カ** 特に配慮を要する児童（生徒）に適切に対応していたか。

第5章 道徳科の評価 第3節 道徳科の授業に対する評価

■ 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

個人内評価として見取り、記述により表現することの基本的な考え方

■ 児童生徒が**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展**させているかどうかという点



■ 道徳的価値の理解を**自分自身との関わりの中で深めている**かどうかという点



【小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 H29.7から一部抜粋】

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

・評価に当たっては、特に、学習活動において児童が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、下記のような点を重視することが重要であり、ICTの効果的な活用が子供たちの学習活動を促すことにもなる。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

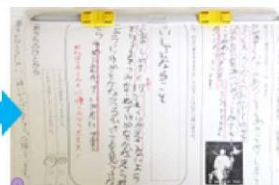
道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

- ・道徳科では、子供たちの学習状況について大きくくりなまとまりを踏まえた評価が求められる。
- ・年間や学期という一定の期間を経て評価するためにICTを活用することが、子供たちが自己を深く見つめることや教師の負担軽減にもつながる。

道徳科の評価のための活用例

継続的な授業によって子供の学習状況を見取り、子供がいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価を行う。

- ・毎時間の授業記録を端末に保存していく。
- ・子供が学びを振り返り、成長の様子を実感する。



「令和7年度小・中学校各教科等担当指導主事連絡・研究協議会：文部科学省」より

学びの記録を端末に蓄積する

蓄積された記録をもとに評価する



道徳科の学習指導過程でのICT活用(例)

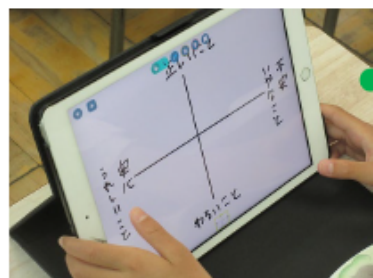
段階	学習の目的	主な学習活動	ICTの活用例
導入	・ 実態や問題を知る。	・ 道徳的価値について、問題意識をもつ。	・ 実態や問題の提示 (画像や映像、グラフ等)
展開	・ 教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	・ 自分自身との関わりで考える。 ・ 多面的・多角的に考える。 ・ 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める。	・ 教材の提示 (画像や映像等) ・ 自分の考えをもつ (ICT端末に示す) ・ 他者の考えを知る (ICT端末に共有する) (表やグラフ等) ・ 話し合う(対話) ・ 自己を見つめる (ICT端末に蓄積する)
終末	・ よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	・ 道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。	・ 生活の様子の提示 (画像や映像等) ・ 外部の方の言葉の提示 (画像や映像等)



プレゼンテーションソフトと学習支援ソフトのファイル共有機能 を活用して、考えを表現・共有

【デジタルスライドの座標軸に

自分の気持ちや考えを位置で示す】



【共有された他者の気持ちや考えを知る】



【学習の目的】

道徳科の学習では、何がよいことで何がいけないことなのかを、様々な内容項目を手掛かりとしながら考え、道徳的価値を理解することなどを通して道徳性を養うことを目標としている。しかし、道徳的価値を知的に理解するだけではなく、その時の自分の受け止め方も合わせて考えていき、その感じ方や考え方は一つではなく、多様であることも理解する必要がある。これらの理解のことを「価値理解」「人間理解」「他者理解」と言い、道徳的価値の理解に必要なものである。

【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

- ・教師が事前に作成したデジタルスライドの座標軸に言葉を入れて児童のICT端末に送り、一人一人の児童は、座標軸上の自分の考えにあてはまる場所に好きなマークを書き加える。その後、一人一人の児童はマークを入れたデジタルスライドを学習支援ソフトのファイル共有機能を使って共有することにより、それぞれの考えを知ることができる。

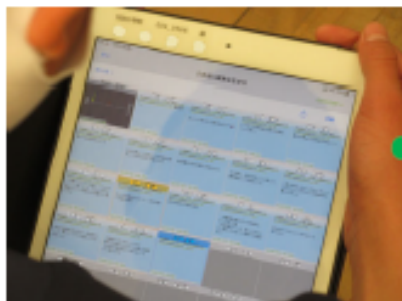
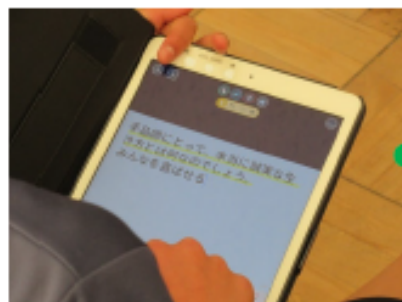
【ICT活用のメリット】

- ・黒板に表示された一つの座標軸に児童がネームプレートを貼っていく場合と比べると、時間が短縮され、ネームプレートを先に貼った児童の考えに影響されにくく、一人一人が自分の考えを表現できる。
- ・共有された友達の考えを視覚的に捉えることができ、自分の考えと同じ友達や違う友達を見つけることが容易にできる。

○ 活用したソフトや機能：プレゼンテーションソフト、
学習支援ソフトのファイル共有機能

学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフトを活用して、 考えを共有・記録

【端末に自分の考えを打ち込む】



【意図的に指名をして紹介する】

【学習の目的】

道徳科では、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるようにするなど、特に自己の生き方についての考えを深めることが大切である。そこで、本時に行われた道徳科の授業を一人一人の児童がしっかりと振り返りながら、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

一人一人の児童がしっかりと、本時の授業を振り返りながら、自己の生き方についての考えを深め文字を打ち込んでいく。一人一人の児童がICT端末に打ち込んだ考えについて教師は、共有したり、意図的に共有しなかったりする。なかなか考えがまとまらない児童への対応として、一定時間を見計らって全児童の考えを共有する。教師は、全児童の内容をICT端末で確認しながら、個別に対応する。

【ICT活用のメリット】

- ・共有された友達の考えを知ることができ、自分の考えと比較して、さらに自分の考えを深めることができる。
- ・教師は全児童の考えをその場にいながらICT端末で把握することができ、意図的に指名をして、特定の児童の考えを他の児童に紹介することができる。
- ・このように毎時間蓄積された児童の考えは、継続的に行われた道徳科の授業で一人一人の児童の学習状況を見取って行われる評価の資料として活用することができる。

○ 活用したソフトや機能：学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフト

ICTの活用

道徳教育は、道徳的価値の理解を深めることが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供たちが自分自身の問題と捉え、向き合う、「**考え、議論する道徳**」への転換により、指導に当たっては、**道徳科の目標に示されている学習活動**に着目し、より効果的に行われるようにするための手段としてICTを活用することが肝要。

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習**を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の授業の質的転換

多面的・多角的に考えるための活用例

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。

＜授業の流れ(例)＞

①「規則の尊重」と「親切、思いやり」との、**いずれの立場を重視するか**について自分の考えを選択し端末に入力する。

②**端末で他者の考えを知る**。

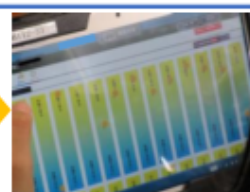
③相互の考えについて根拠に基づき、議論する。

④**端末に入力した全体の考えを共有**し、振り返る中で考えを深める。

※互いの考えを伝え合ったり、相手の思いを受け止めて話し合ったりすることができる支持的な学級風土が重要となる。



①規則を守るか、例外を認めるか、自分の考えをもつ。



②他者の考えを知る



③他者と議論する



④全体で共有し、規則の意義について考える。

自分自身との関わりの中で深める活用例

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。

＜授業の流れ(例)＞

①「正直、誠実」とは何かについて他者との議論を通して道徳的価値を理解する。

②自分自身にとって「**正直、誠実**」は、何を大切にすることを改めて自己を見つめ整理し、**端末に考えを表記**する。

※人前で話すことが苦手な児童生徒も考えを示すことが可能となる。

③教師が**端末に入力されたそれぞれの考えを把握・整理し、全体に共有する**。

④子供の考えを全体に紹介する。



①誠実とはどのようなことを他者と議論する



②自分が大切にしたい誠実な心に向き合う。



③教師が把握する



④意図的に指名をして全体に紹介する

※下線部が端末の活用を想定

の学習状況について大くりなまとまりを踏まえた**評価**が求められる。

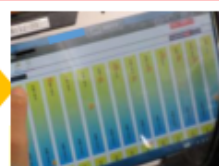
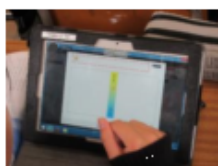
児童（生徒）の**学習状況や道徳性に係る成長の様子**を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。（小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳）

評価に当たっては、特に、学習活動において子供が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、次のような点を重視することが重要であり、I C Tの効果的な活用が子供たちの学習活動を促すことにもなる。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、**自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。**

- ・問題を自分事と捉えて授業に臨む。
- ・端末で、他者の考えを知り、共有して多面的・多角的に考え、自分の考えを表現する。



他者と議論する



全体で共有する

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、**多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。**

- ・議論を通して道徳的価値を理解する。
- ・改めて自己を見つめ、**端末に自己の生き方についての考えを表記し、共有する。**



他者と議論する



自己を見つめる



教師が把握する



全体で紹介する

また、年間や学期という一定の期間を経て評価するために I C Tを活用することが、**子供たちが自己を深く見つめることや教師の負担軽減にもつながる。**

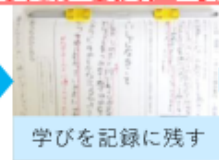
道徳科の評価のための活用例

継続的な授業によって子供の学習状況を見取り、子供がいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価を行う。

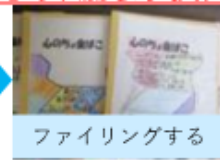
- ・毎時間の授業記録を**端末に保存していく。**
- ・子供が学びを振り返り、成長の様子を実感する。
- ・教師が子供の学びを見取り、評価に生かす。



自分の考えを書く



学びを記録に残す



ファイリングする

1人1台の端末に保存していくことで・・・
子供が振り返りやすくなる。
教師が子供の学習状況を把握しやすくなる。

令和7年度文部科学省 予算等の発表資料から

道徳教育の充実

令和7年度予算額
(前年度予算額)

43億円
43億円)



背景・課題

- ▶ 従前の「道徳の時間」を「**特別の教科 道徳**」(道徳科)として位置付けた学習指導要領が、平成30年度から小学校、令和元年度から中学校で全面実施。答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題として捉え向き合う「**考え、議論する道徳**」へと質的な転換を図っている。
- ▶ 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査結果(速報版)(令和6年7月公表)では、「特別の教科 道徳」の目標の実現に向けた取組について、**教師の指導に関する認識と児童の受け止めに**に関する認識に差があり、**より一層「考え、議論する道徳」の質的充実等の視点からの授業改善を図っていくことが必要**。
- ▶ また、「特別の教科 道徳」と特別活動でのいじめ未然防止に係る取組の充実に向けた児童の受け止めには相関が見られており、また、令和5年度全国学力・学習状況調査の追加分析(令和6年5月公表)からは、「特別の教科 道徳」や特別活動等の取組と児童生徒のWell-beingには相関が見られている。児童生徒のいじめや自殺等への対応が喫緊の課題である中、**小・中学校、高等学校を通じて、学校教育全体を通じた道徳教育を推進していくことが一層重要**。

1. よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進

2.7億円(2.7億円)

①道徳教育アーカイブの充実

道徳の「特別の教科」化の趣旨を踏まえ、「**考え、議論する道徳**」の授業づくりの参考となる**授業動画**をはじめ様々な情報を発信する「**道徳教育アーカイブ**」の**充実を図ることで、教師の授業改善を支援**する。

また、(独)教職員支援機構(NITS)や各教育委員会等との相互の連携により活用促進、認知度向上を図る。



②学校や地域等が抱える課題に応じた取組の支援

- ・道徳科の授業改善に向けた指導や評価方法の研究・成果普及、道徳教育推進教師を中心とした体制構築の取組
- ・**外部講師の派遣や地域教材の活用、家庭や地域との連携等、地域の特色を生かした道徳教育の実践**
- ・**学校教育全体を通じた道徳教育の充実に向けた取組(生命の大切さの自覚やいじめの未然防止に資する取組等)**
- ・「特別の教科」化以降の各地域での実践的知見の見える化・共有化等

③「総合的な探究の時間」の質向上を通じた道徳教育の充実

道徳教育を通じて、未来を拓く主体性のある日本人の育成に向けて、高校「総合的な探究の時間」における、**自己の在り方生き方と一体不可分な課題に対する探究活動を発展・充実させるため、実践研究を実施**する。

- 日本社会が抱える現代的な諸課題をテーマとした実証モデルを創出。
- ✓学校と外部専門家、民間企業等との連携充実のため、連絡調整に係る支援を実施
- ✓生徒のフィールドワーク、インタビュー、実地体験等の直接的な体験活動について支援

委託先

- ・民間団体(①)
- ・自治体、学校設置者(②※、③)
- ※②は小中高いずれも取り組むことを条件

箇所数
単価

- ・1箇所 19百万円(①)
- ・60箇所 4百万円/箇所(②)
- ・5箇所 6百万円/箇所(③)

2. 道徳科の教科書の無償給与(小・中学校分)

40億円(40億円)

小学校及び中学校の道徳科の教科書の無償給与を実施。

連携重点施策

- ◆いじめ対策・不登校支援等総合推進事業
- ◆健全育成のための体験活動推進事業
- ◆情報モラル教育推進事業
- ◆道徳教育推進研修
- ◆教員研修高度化推進支援事業

(担当: 1. 初等中等教育局教育課程課、2. 初等中等教育局教科書課)

道徳教育アーカイブ

全国の優れた実践事例・参考資料を集めた教師のためのWebサイト

道徳教育アーカイブ

文部科学省では、「特別の教科 道徳」の趣旨の実現を図るため、「考え、議論する道徳」の授業づくりの参考となる映像資料等を提供し、学校の取組を全力で支援します。

道徳教育アーカイブ
～「特別の教科 道徳」の全面実施～

<https://doutoku.mext.go.jp>

道徳教育アーカイブ



授業映像



実際の授業の映像と授業者へのインタビューを通して、「考え、議論する道徳」の授業づくりの参考となる工夫のポイントを紹介。研修等においても活用しやすいように1事例20分程度の動画として編集している。「自分ならばこういう工夫をする」「この発問は効果的である」といったことを話し合ったり、検討したりするなど、様々な方法で活用いただくことを想定。

工夫事例(指導案)

各都道府県等で行われている道徳の授業の実践例(指導案)のうち、「考え、議論する道徳」の授業づくりの参考となると考えられる事例を紹介。

授業で使える郷土教材

教科書とあわせて、授業で活用できる郷土の伝統や文化、偉人などに関するものなど、各都道府県等が作成した地域の特色ある教材を紹介。



いじめ防止を扱う実践事例

道徳の授業における実践例に加え、特別活動(生徒会活動)で取り組む事例を含め、各都道府県で実際に行われている、いじめの防止に関わる具体的な問題場面を取り扱った事例を紹介。

教育委員会作成指導資料

各都道府県等の教育委員会が、教師向けに独自で作成した道徳教育のポイント等をまとめた指導資料や実践資料集等を掲載。



道徳教育を知るための資料

道徳教育を知るための基礎資料として、道徳の「特別の教科」化の経緯に関する資料、学習指導要領解説や研修用資料、道徳教育実施状況調査の結果及び結果のポイントについての教科調査官による解説動画などを掲載。

文部科学省作成資料

「私たちの道徳」や「心のノート」等、これまで文部科学省において作成してきた教材をまとめて掲載。

